

昭和58年12月

七友会

第 4 号

岩手大学人文社会科学部同窓会



次

目

あいさつにかえて	金 沢 幸 範	1
窓（会員のたより）		2
近況報告	大 沢 雅 幸	2
太平洋戦争開始の頃	大 内 義 一	3
評議員会報告		4
昭和57年度事業実績報告		5
昭和58年度事業計画		6
昭和57年度人文社会科学部同窓会会計決算書		7
昭和58年度人文社会科学部同窓会会計予算書		9
通信欄		11
理事会から		12
同窓会役員名簿		93
会 則		92
会員名簿（昭和55年度卒業）		89
（昭和56年度卒業）		69
（昭和57年度卒業）		45
特別会員名簿		19
題 字	岩手大学人文社会科学部長 大畑 莊 一	

あいさつにかえて



七友会副会長

金 沢 幸 範

岩大構内の樹々の紅葉も散りはじめ、盛岡は、日一日と冬に近づいています。今の時期になると何年か前の大学祭、あるいは就職活動の事を思い出す方が多いのではないのでしょうか。

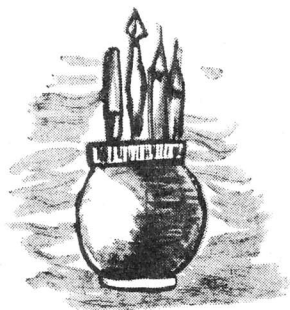
さて、七友会会報第4号がやっと出来上りました。今回はこちらの不手際により発行がだいぶ遅れてしまい、会員の皆様には大変御迷惑をおかけしました。深くお詫び致します。会報については、形式はどのようなものであれ、とにかく定期的に発行しなければならぬということ、を、今回、初めて編集に参加して痛切に感じました。各地で支部結成の動きがあり、一方では、社会に出て孤軍奮闘している様子が葉書あるいは封書で同窓会あてに送られてきます。また、同窓会総会の予定についての問い合わせもあります。これらの会員の方々の動きに対応した情報の提供を会報はしなければならないと痛感いたしました。

岩大生の間では、人社会学部の学生は、他学部との学生と

は違うという評価を創立当初からうけてきたと思います。その理由の一つとして、履習の内容について、他学部より自由度が大きいということがあると思います。そのため入学した時点で、どのようなことをやるかという抱負も各人各様であったと思います。この自由度の大きさは就職にもあらわれており、まさに、他方面、そして各地に人社会学部卒業生は散らばっています。

では、一般の人々の人社会学部に対する評価はどうかという、知名度その他の点でまだまだではないでしょうか。言いかえれば、岩手大学人文社会科学学部に対する一般の評価は、社会に出た私達の活躍いかんによると思います。

以上、ずいぶん偉そうな事を書き連ねてしまいました。が、とにかく、会員の皆様が健康に気をつけられて、今後各方面で大いに活躍されることを切にお祈りします。



☆
窓
☆

近況報告

大沢 雅幸

六年前の五月、生まれて初めて盛岡駅に降り立った僕が、今では岩手出身の人間のように岩手を語り、懐かしむ様になりました。こうした傾向は殊に卒業してから増幅されてきたようで、在学中に見聞した事物が次第に醸成されて僕の精神の中に大きな比重を占める迄に至ったようです。

僕は現在春日部市の市民税課で法人市民税を担当しています。最近では首都圏の自治体の事が色々と取り沙汰されていますが、うちでは武蔵野市、鎌倉市のような退職金は出していません。それ以前にも高給自治体として名指しされたりもしましたが、学生が就職する際の選択の結果が僕の今の職業になっちゃった訳で、少しは理解して戴けないでしょうかねえ……ダメ？

公務員となって恩恵を受けている点と言えば年次有給休暇を割と自由に使える事かな。今年も秋分の日を利用して九月の十八日から二十五日にかけて陸中沿岸を北上する予定です。こうしたオフ・シーズンの休み方は民間

企業の方はおろか、あの長い休みを誇る教員の方々にすら真似のできないところで、とっても痛快つー快！

但しこれが年末年始のスキーを終えた後から五月いっぱいには儘ならない。法人担当とは言っても他の業務が繁殖、多忙を極めるこの時期は二、三月が住民税、所得税の申告受付に駆り出され、受け付けた申告の処理から納税通知を完送する六月初旬迄は殆ど休みをとれなくなります。今年などは残業、日曜出勤の連続で五月から六月にかけて連続一ヶ月出勤という公務員とは思えないような多忙な生活を余儀なくされました。七月からは年末迄さほど酷ではありませんが、税務の窓口ニコニコやって来る市民なんぞおりませんから楽しい仕事ではありませんねえ。

ところで、皆各々最低でも三年十ヶ月は過ごした岩手について、各人各様の想いを抱かれています。その想いが良しにつけ悪しきにつけ、思い出というものは昇華させて各人の心の支えとなり宝物となる筈です。僕はその宝物を失わずに更に蓄積を重ねて大きく飛翔する事ができれば悔いの残らない一生になると信じています。

こんな文章を書く柄じゃあないんだけど滅多にない事です。読んで戴けた事、大変嬉しく思っています。いや、それにしても六三四の剣の風景と街並は素晴らしい「岩手おろし」が一段と旨い！みんな元気でね！

(春日部市役所勤務)

太平洋戦争開始の頃



人文社会科学部教授

大内 義 一

これから退官される先生方で十六年十二月以前に社会人になっておられた方があるまいと思うので、その辺の事を一つ話してみたいと思う。私は昭和十六年三月東北帝大物理学科を卒業し、海軍航空技術廠（在横須賀、試作航空機の研究制作）に入廠、同年六月海軍技術中尉に任官、戦争の内側に立つことになった。従来迄は、士官になると同事に艦船にのりこみ海上の経験を積むを例としたが、この時以来、海を知らない海軍士官がでてきた情勢がそれだけ匹迫していた訳である。六月下旬にはドイツのソ連攻撃、日本の南部仏印の進駐があり、完全な臨戦体制下にあった。二ヶ月余り、横須賀の砲術学校で、士官養成のための基礎訓練（高等学校時代に行なった野外演習を猛烈に強化したもの）を行なったが、学校に停泊中の艦が臨戦準備のため「可燃物除去」「不要品積下し」の現場を目撃した。艦の様相は一変していた。八月一日、米国が航空機用燃料の輸出禁止の記事をみた時は「くるものが来た」という感をもった。といって訓育中

の身として何ともできない。教育主任の少佐は米英打つべしの劇しい意向を吾々に打つけた。九月中旬勤務庁である航空技術廠に戻った。技術工場の故か、意外に静かな雰囲気であった事が思い出される。こんな事があった。新任士官の吾々が一堂に集められて特殊物資の配給に与った。M・J・Bの大罐（コーヒー）、大型瓶入りの蜂蜜。それに背広用布地二着分の配給があるという。前記不要物資のおこぼれに与った訳だが、国内の物資欠乏を考える時、夢みたいな送り物だった。さすがに布地だけは取りやめになった。後日、腹を空かした学徒動員の末弟が蜜入りの瓶を舌めた覚えありというから、四年近く保存していたことになる。

開戦の日は横須賀でもかなりの寒さを感じた、晴天の朝だった。士官用送迎バスの中で開戦を知った。朝六時の放送が皮切りで、繰返し行なわれたらしいが、朝遅い下宿先では逐に聞けなかった。十一月下旬のハルノートの内容が新聞にでた時は今後どうなるのかなと思ったが「よもや」という気持ちの方が強かった。「やったか」という昂奮と、「米英相手」という恐怖が入り混った感慨だったように思う。正午全廠員一同に会し、廠長による大詔奉読並びに訓示、解散。この頃からハワイ空襲の戦果の程がささやかれ出した。想像以上の成果だったようである。後日色々な話が虚実入り交じって伝えられた。アリゾナ・ユタ型戦艦の甲板を貫ける三〇番徹甲弾が鹿島の爆撃場で成功したのが開戦への信号であっ

たとか、オアフ島の停泊地の地形が鹿児島湾のそれとそっくり故、ここで訓練を重ねた事（これは事実らしい）。兵学校出の士官の活躍は誠に目覚ましかった。二日後のマレー沖海戦、これは航空機のみによる最新鋭戦艦の撃沈として、今次大戦の様相を決定した。後に到る程感銘を新たにしている。解散後各部の士官室に戻る時、先輩士官の一人が、白手袋をつけた手で睨をめぐっていた光景を未だに忘れ得ないでいる。理工系大学出の士官は嘗て学んだ学問の全てが欧米由来のものである。学生実験用には日本製品、研究用には欧米製、明らかに基礎技術に力の差があった。資源不足と相俟って、吾々の科学技術力の劣勢が戦局に現われるのに時間はかからなかった。



評議員会報告

昭和五十八年度の定例評議員会は、会則の第四章、第十四条に基づき、さる五月二十一日人文社会科学部一号館会議室にて開かれました。忙しい中、十二名の出席を得、活発な討議により左記のように、昭和五十七年度事業実績及び決算報告と、昭和五十八年度事業計画及び予算案を全会一致で決定いたしました。前年度までの様々な反省にたつて、今年度からは、予算の支出方法を明確にすることにし、特に支部援助費等は積極的に使用することになりました。さらに、会員活動援助費の中の、卒業記念品援助は、各卒業期ごとに記念品が贈れるようにと、独立した事業として卒業記念品贈呈という項目を設け、今年度は、二期生、三期生および卒業期の三期分を計上しました。品目については、各期の評議員を中心として十月中には決定してもらうことになりました。なお、評議員会の了承事項として、会員名簿の有料化の検討および、評議員会の旅費規定案の作成があげられました。また、五十八年度の予算は、すでに納入された会費分を基本に算定し、以後徴収の会費は、特別収入（仮）として予算に組み入れる特例措置としました。

（佐原記）

昭和五十七年度 事業実績報告

一 会報の発行（年二回）

第一回（第二号）…九月三日に印刷上がり、発送。

予定の七月中旬より大幅な遅れ。住所確認に時間がかかり、印刷が遅れた。部数は五百部。

第二回（第三号）…五十八年二月十七日発行。

部数は千部。

二 会員活動援助

(一) 卒業生への記念品…同窓会銘入りの証書入れを卒業生全員に贈呈。その他の記念品は選考できず断念。

大学への記念品は、学生の意見がわからず、援助を留保した。

(二) 卒業記念品援助…大学への記念品は、学生の意見がわからず、援助を留保した。

三 支部活動及び支部設立援助

前年度には、岩手県支部が設定されたのみでしたが、今年度は新たに秋田県支部（代表、長崎直人）と、関東支部（代表、塩田勝美）が設立され、青森県支部の設立が準備されています（六月現在設立され、代表、猿川）。金銭面での援助は、方法が明確にされなかつ

四 たため、残念ながら行なわれていません。文化事業援助

次のような学術講演会等が開催され、大学内外で好評を得、新聞紙上でも取り上げられました。

演 題	講師職氏名	実施日	学科目等
ドイツとアメリカの大学	西ドイツ・ジーゲン大学教授 ヘルムート・クロイツァー	10月5日	欧米研究 (独語)
科学者と社会人	東京大学教養学部講師 中山 茂	10月7日	科学論
健康的人格と精神的耐性	東北大学名誉教授 北村 晴朗	10月21日	行動科学研究
マルセル・プルーストにおける現代性と伝統	パリ・ソルボンヌ大学教授 ミッシェル・レイモン	11月8日	欧米研究 (仏語)

五 特別積立

(一) 学部設立十周年記念事業積立

(二) 同窓会設立五周年記念事業積立

(一)、(二)各々目的の趣旨にそい、二十万円ずつ積立しました。

六 その他

- (一) 退官なされた八重樫喬任先生には、「手提げたばこ盆」を贈呈いたしました。
- (二) 五十八年五月開催の親睦会は、二年度にまたがったため、別項に詳しく報告しています。

昭和五十八年度 事業計画

一 会報の発行（年二回）

第四号（八月上旬発行予定）…会員名簿付、七百部
 第五号（二月中旬発行予定）…卒業生、新入生分も含む。千二百部。

二 会員活動援助

卒業生全員へ、同窓会銘入り証書入れを贈る。

三 支部活動及び支部設立援助

四支部（岩手県・秋田県・関東地区青森県…六月設立）には、活動援助として、とりあえず各々二万円を割り当て支出報告をうける。

四 文化事業援助

今年度も昨年度同様、学部専門分野に関連した講演会などの文化的行事の開催を援助する。学部への寄附の形をとり、運用に関しては学部に一任するが、支出

報告ならびに行事内容（講演内容や学生の反応など）の報告をうける。

なお、今年度予定の学術講演会は次のとおりです。

演 題	講 師 職 氏 名	実 施 日	学 科 目 等
仏教研究について	Australian National University Melbourne. Prof. Dr. ユンヅ J. W. de Jong.	10月末日	アジア思想史
憲法の平和主義の現状と将来	北海道大学 教授 深瀬 忠一	10月14日	法学研究
海洋と生命	東北大学理学部 附属浅虫臨海実験所 所長 長内 健治（教授）	6月14日（終了）	総合科目（人間環境科学）

五 卒業記念品贈呈

卒業を記念して、卒業期毎に大学に記念品を贈る。今年度は第二期、三期、四期卒業生分、各十万円ずつを計上し、各期毎に品目を選定する。

六 特別積立

- (一) 学部設立十周年記念事業
- (二) 同窓会設立五周年記念事業積立

昭和57年度人文社会科学部同窓会会計決算書

1 一般会計

〔歳入〕

(単位：円、減：△)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	摘 要
1.会 費	3,680,000	2,792,000	△888,000	56年度卒業生分 852,000 57年 9 月卒業生分 10,000 57年度入学生分 1,930,000
2.雑 収 入	7,673	17,771	10,098	預金利息
3.特別収入(仮)	0	58,000	58,000	55年度卒業生会費分
4.前年度繰越金	143,262	143,262	0	
合 計	3,830,935	3,011,033	△819,902	

〔歳出〕

(単位：円、増：▲)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	摘 要
1.事 業 費	830,000	647,960	182,040	
会報発行関係	330,000	361,960	▲ 31,960	
連 絡 費	30,000	30,000	0	連絡用ハガキ 250 枚
会報印刷費	210,000	255,000	▲ 45,000	2号分(500 部) 220,000 3号分(1,000 部) 35,000
会報郵送料	90,000	76,960	13,040	2号分 57,760 3号分 19,200
会 員 活 動 費	200,000	42,000	158,000	
卒業生への品	120,000	42,000	78,000	卒業証書入れ 210 本
卒業記念品	80,000	0	80,000	
支部援助費	70,000	0	70,000	
講演会補助	200,000	200,000	0	大学へ寄附
諸 費	30,000	5,000	25,000	八重樫先生への記念品
親睦会関係費	0	39,000	▲ 39,000	親睦会案内用ハガキ 300 枚
2.会 議 費	130,000	86,380	43,620	
評 議 員 会 費	50,000	50,000	0	旅費、会議資料

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	摘 要
諸 会 議 費	80,000	36,380	43,620	役員会会議費
3.事 務 費	50,000	5,000	45,000	会則印刷
4.特 別 積 立 金	1,500,000	1,500,000	0	
5.雑 費	50,000	50,000	0	事務、会費徴収謝礼金
6.学部設立10周年 記念用積立金	200,000	200,000	0	
7.同窓会設立5周年 記念用積立金	200,000	200,000	0	
8.予 備 費	870,935	39,000	831,935	事業費へ繰入
合 計	3,830,935	2,689,340	1,141,595	

{ 歳 入 総 額 3,011,033 円 }
 歳 出 総 額 2,689,340 円 }
 次年度繰越金 321,693 円 }

2 特別会計

〔 歳 入 〕

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	摘 要
1.積 立 金	200,000	200,000	0	定期継続
2.雑 収 入	10,000	10,605	605	預金利息
3.一般会計から の繰入金	1,500,000	1,900,000	400,000	特別積立金の他に10周年、5周年分も繰入
合 計	1,710,000	2,110,605	400,605	

〔 歳 出 〕

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	摘 要
1.積 立 金	200,000	200,000	0	
2.新規積立金	1,510,000	1,910,605	400,605	
合 計	1,710,000	2,110,605	400,605	

昭和58年5月21日(土)

監査員 高 橋 理 子 ㊦

昭和58年度人文社会科学部同窓会会計予算書

1 一般会計

〔歳入〕

(単位: 円)

科 目	予 算 額	摘 要
1.会 費	3,100,000	10,000 × 310 名 (入学生 210 名、第三期生 100 名)
2.雑 収 入	17,771	預金利息
3.前 年 度 繰 越 金	321,693	
合 計	3,439,464	

〔歳出〕

(単位: 円)

科 目	予 算 額	摘 要
1.事 業 費	1,058,000	
会 報 発 行 関 係	583,000	
連 絡 費	45,000	往復ハガキ (350 部) 印刷など
会 報 印 刷 費	370,000	} 第 4 号 分 700 部
会 報 郵 送 料	9,000	
会 報 印 刷 費	48,000	} 第 5 号 分 1,200 部
会 報 郵 送 料	30,000	
会 員 活 動 援 助 費	45,000	卒業生への記念品 (証書入れ)
卒 業 記 念 品 贈 呈 費	300,000	第二期、三期、四期卒業生分
支 部 援 助 費	100,000	支部設立及び活動援助
文 化 事 業 補 助	200,000	広く文化的事業への援助 (寄附)
諸 費	30,000	退官記念品、慶弔費等
2.会 議 費	150,000	
評 議 員 会 会 議 費	70,000	旅費等
諸 会 議 費	80,000	役員会会議費等
3.事 務 費	60,000	

科 目	予 算 額	摘 要
封 筒 印 刷 費	50,000	
事 務 用 品	10,000	
4.特 別 積 立 金	1,000,000	
5.雑 費	50,000	事務、会費徴収謝礼金
6.家部設立10周年 記念用積立金	200,000	
7.同窓会設立5周年 記念用積立金	200,000	
8.予 備 費	521,464	
合 計	3,439,464	

2 特別会計

〔 歳 入 〕

(単位：円)

科 目	予 算 額	摘 要
1.積 立 金	2,100,000	
2.雑 収 入	50,000	預金利息
3.一般会計からの 繰入金	1,400,000	
合 計	3,550,000	

〔 歳 出 〕

(単位：円)

科 目	予 算 額	摘 要
1.積 立 金	2,100,000	
2.新 規 積 立 金	1,450,000	
合 計	3,550,000	

通信欄

◇◇◇◇◇
代理店のタマゴで苦戦中。金儲けしたら、そのうち必ず、同窓会出席します。
(石田初彦)

◇◇◇◇◇
四月から一年生の担任となり、小学生のような生徒を相手に頑張っています。部活動などで休日もなく、つくづく学生時代を懐しく思ってる、そんな毎日です。
(西原良一)

◇◇◇◇◇
小学校講師をしながら明星大学通信教育で小学校教諭の免許を取得。教採も合格し、四月から正教員として小学校の教壇に立っています。
(佐々木道夫)

◇◇◇◇◇
先日、教育実習の報告書を読み、自分と現場の教師のあり方について大きく違うことを感じました。先生という呼び名は同じでも、塾と学校では大きく違いますよね!! 矛盾を感じながらも、仕事を続けるしかないのかな?
(上條智代子)

◇◇◇◇◇
この春の人事異動により、仙台店から事務所の方へ移りました。婦人のブラウス、トレーナー関係のアシスタントバイヤーとして、出張・巡回がふえそうです。
(鈴木陽子)

◇◇◇◇◇
四月から異動で地元の公民館になりました。通勤は楽ですが、何かと大変で日曜日は休めないことが多いです。
(多田利明)

◇◇◇◇◇
毎日、あわただしく走りまわっている生活ですが、結構楽しく生きてます。我が身の春を語りたい……のですか? どうなることやら波乱万丈のこの人生
(田口修吾)

◆◆◆◆◆
御結婚おめでとうございます。御多幸を祈ります。

尾川恭子様 (新姓 佐藤)

佐藤信行様

京極香代子様 (新姓 菅)

長尾しのぶ様

稲垣秀悦様

塩田勝美様

波多野匠様

長内万由美様 (新姓 柳谷)

菊地美千代様

佐々木由香子様 (新姓 阿由葉)

笹間瑞恵様

中西康之様 (新姓 箱崎)

昆西伴子様

大里玲子様 (新姓 田中)

山口裕二様

初めての親睦会を終えて



さる五月四日、第一回同窓会親睦会が盛岡において開かれました。参加者は約六十名でしたが、遠くは北海道や東京からも集まり、また飛び入りなどもあつてたいへんにぎやかな会となりました。先生方にも、大畑学部長をはじめとし、各科からあわせて十六名も参加していただき、大学時代の懐かしい話や就職後のことなど夜遅くまで語り合うことができました。日の方も多数おりましたので、次回の六十年開催には、日時・場所等についても充分検討したいと思ひます。最後に、人文社会科学部の発展を祈つて、乾杯！

理事会から

七友会も三年目をむかえ、評議員会で役員改選をして新風を吹きこんだのですが、仕事との両立はむずかしく、同窓会運営も思うようには進みません。ややもすると、同窓会のことを忘れてしまひそうになります。そんなときは、会員の皆さん、気軽に声をかけて下さい。手紙の一つでも、電話の一本でも、同窓会のこと、なつかしい友のことを思い出すきっかけになるのです。これから、仲間同志や支部で集まる時があると思います。そんな時の様子を同窓会までお知らせいただければうれしいのですが……。

なお、まだ同窓会費未納の方がおりましたら是非、左記口座に御支払い下さるようお願いいたします。運営上支障をきたしますので。

(郵便振替) 口座番号

盛岡一八一五四二三

岩手大学人文社会科学部同窓会

編集後記

毎回、この項を書くときは気がひけてしまふ。今年こそはと思ひながら、御中元の予定が、御歳暮になつてしまつた。もしかするとクリスマスプレゼントか。お年玉にはしたくないのだが……。みなさんの御協力をお願いします。